国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

愛知教育大学
未来共創プラン
2022

未来の教育を共に創る

『子どもの声が聞こえるキャンパス』を目指して

2022年12月7日(水)に開催された子どもキャンパスプロジェクト「ようこそ！山と海の子どもたち」の様子。

一年間で 3,000 名以上の児童、生徒、園児と
2,500 名以上の保護者、学校教員、学生が参加しました

公立小学校・幼児園を招待しました

東栄小学校 1～4 年生・佐久島しおさい学校 1～6 年生 遠足

富士松北小学校 2 年生 町探検

井ケ谷幼児園 4・5 歳児 どんぐり拾い

第 2 回あつまれ！子どもキャンパス

地域と連携してイベントを開催しました

サッカーフェス

ミックス・スポーツフェスタ in 愛教大

井ケ谷・西境北東子ども会クリスマス会

附属特別支援学校高等部 遠足

附属特別支援学校中学部 遠足

附属学校園を招待しました

附属岡崎小学校 3・4 年生 遠足

附属名古屋小学校 2 年生 遠足

2022年度「子どもキャンパス」参加者一覧

日付	イベント名	児童等
4/20	附属岡崎小学校 3・4 年生 遠足	178
4/26	附属名古屋小学校 2 年生 遠足	88
5/8	子どもまつり	249
6/12	井ケ谷・西境北東子ども会 新入生歓迎会	86
6/13	附属幼稚園 5 歳児 じゃがいも掘り	50
6/28	附属特別支援学校高等部 1・2 年 遠足	19
7/1	附属岡崎小学校 4 年生 留学生交流授業	30
7/9	馬術部 ふれあい体験会	22
8/6	宇宙体感・体験プロジェクト	21
8/7	サッカーフェス	96
8/9	カブトムシのつかまえかたおしえます！	6
9/18	AUE.A スポーツ教室	33
9/28	成章高等学校 2 年生 大学見学	19
10/9	AUE.A スポーツ教室	36
10/24	附属幼稚園 4 歳児 さつまいも掘り	50
10/28	附属特別支援学校中学部 遠足	11
10/28	井ケ谷幼児園 4・5 歳児 どんぐり拾い	97
10/31	星城高等学校 1 年生 大学見学	160
11/19	科学・ものづくりフェスタ	約 700
11/20	第 2 回あつまれ！子どもキャンパス	282
12/7	東栄小学校 1～4 年生・佐久島しおさい学校 1～6 年生 交流	70
12/10	宇宙体感・体験プロジェクト	12
12/11	冬の子どもまつり	207
12/11	井ケ谷・西境北東子ども会 クリスマス会	87
12/18	ミックス・スポーツフェスタ in 愛教大	71
2/5	AUE.A スポーツ教室	60
2/12	サッカーフェス	137
2/21	富士松北小学校 2 年生 町探検	71
3/11	AUE.A スポーツ教室	60（予定）
3/26	ジュニアデカスロン in 愛教大	40（予定）
		合計　3,048

学長謝辞及び今後の抱負

愛知教育大学は、教育大学であるからこそ、キャンパスで日常的に学生と子どもが触れ合うような環境をつくりたい。そして、大学の研究成果や資源等を活用して地域に貢献したい。このような思いで、学長就任時に、目指す大学の姿を「子どもの声が聞こえるキャンパス、地域から頼られる大学」というキャッチフレーズとして掲げました。

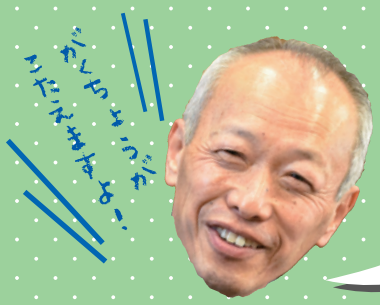
「子どもキャンパス」の趣旨をご理解いただき、各イベントには、公立・私立学校園、本学附属学校園の教職員の皆様、保護者の皆様、地域の皆様等のご協力で、多くの参加者に来ていただき、盛り上がりました。６年間で１万人の参加者を目指して、さらに魅力ある企画を考えていきます。

学長　野田敦敬

そもそも

「愛知教育大学 未来共創プラン」

て、なんだニャ？何をするのかニャ？



本学のキャッチフレーズとして、「子どもの声が聞こえるキャンパス」、「地域から頼られる大学」を掲げ、そこに謳う理想の姿を実現すべく、「愛知教育大学中長期ビジョン・目標・戦略」に「共に未来の教育を創る」という思いを込め 2021 年 3 月に策定されたものだよ！

●「愛知教育大学 未来共創プラン」のビジョン

「愛知教育大学は、
子どもと共に、
学生と共に、
社会と共に、
附属学校園と共に、
未来の教育を創ります。」

『未来の教育』を考える上では、これからの未来を担う子どもたちをはじめとした様々なステークホルダーの声を受けとめ、開かれた大学として共に前進していくことが不可欠であると考え、ビジョンにその方向性を位置づけました。
このビジョンは
1. 子どもを大切にする
2. 学生を主体的な存在として尊重する
3. 地域社会、学校、教育委員会とのつながりを大切にする
4. 附属学校園との連携を一層強化する
5. 共によりよい教育を創る

という 5 つの視点から成ります。

●3 つの目標と 9 つの戦略

「愛知教育大学 未来共創プラン」のビジョンの実現に向けて、重点的に取り組む道筋を3つの目標として掲げ、目標を達成するために具体的な行動の方針として9つの戦略を立てました。

「愛知教育大学 未来共創プラン」の新サイトがオープンしました！
みんな遊びに来てニャン♪
https://www.aichi-edu.ac.jp/cocreate/

目標１ 子どもや学生、社会との対話や協働を通して、現代的教育課題の解決に貢献し、より質の高い教員及び教育支援専門職の養成を実現します。

戦略１ 大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供します。

（子どもキャンパスプロジェクト）…5P

戦略２ 教育リソースデータバンクを設置し、教育現場の問題解決に貢献する教育のプラットフォームを構築します。

（教育のプラットフォーム構築プロジェクト）…11P

戦略３ よりよい教育の未来につながる教職の魅力を共に創り出し、発信します。

（教職の魅力共創プロジェクト）…13P

戦略４ 協定校を始めとする海外の教育機関との連携を密にして、グローバル化に対応したプログラムを学部と大学院で整備します。

（グローバル化推進プロジェクト）…17P

目標２ 大学と附属学校園との連携強化を図ることで、より質の高い教員研修を実現します。

戦略５ 附属学校園と教職大学院との連携を強化し、教育の実践的研究拠点を構築します。

（共創的探究活動指導力育成プロジェクト）…19P

戦略６ 教育委員会や教育現場等との緊密な連携を通して、附属学校園が今後の公立学校等のモデルとなる実証研究に取り組みます。

（大学・附属学校園連携推進プロジェクト）…21P

目標３ 広域拠点型教員養成系大学としての意義と価値を高めます。

戦略７ 教科等横断し、協働的に学び合う次世代型プログラムを開発するとともに、教育効果を客観的に検証する評価システムを構築し、学生の資質向上や大学の授業改善につなげます。

（教科横断探究プロジェクト）…23P

戦略８ IR 部門を活用して得られた学内外の客観的なデータに基づき、戦略的な大学運営を行うとともに、教職員が協働して柔軟な組織運営を行います。

（IR・教職協働の推進）…25P

戦略９ 国交私立大学と連携協定を締結して、教職大学院を核としたネットワークを構築します。

（大学間ネットワークの構築）…26P

戦略 1
子どもキャンパスプロジェクト

大学及びその周辺地域を「学び」と「遊び」を一体化できるエリアとして、実践フィールドと実践プログラムを提供します。

●「学び」と「遊び」が一体化したエリアへの転換
●学生・教職員・地域の協働で多様な興味関心を広げる機会を増加
●遠足や校外学習等の新たな目的地としての提案
●大学に自生している竹を活用したアクティビティーの創出と関連した体験的な教科学習
●大学のリソースの再発見と有効活用、課題解決の推進

プロジェクトメンバー
真島 聖子　小塚 良孝　樋口 一成　縄田 亮太　成瀬 麻美　西野 雄一郎　近藤 裕史　稲垣 匡人　樋口 眞二　柘植 貴史　大森 智子

活動レポート 1

●「学び」と「遊び」が一体化したエリアへの転換

第 2 回『あつまれ！子どもキャンパス in 愛知教育大学』を開催しました

11 月 20 日（日）、第 2 回『あつまれ！子どもキャンパス in 愛知教育大学』を開催しました。小学生 282 名と大学・附属高等学校から 264 名（学生・生徒 232 名と教職員 32 名）、地域の高等学校から 11 名（生徒 10 名・教員 1 名）の計 557 名（保護者の方を除く）が参加しました。

2 回目となる本イベントは昨年度よりも実施規模を拡げ、教職員や学生が作成した 23 のプログラムを組み合わせ、一つのプログラムをじっくり体験する「愛教ちゃんコース」12 コースと、二つのプログラムを時間を分けて体験する「エディコース」7 コースの計 19 コースを設けました。参加した子どもたちは希望したコースのプログラムに熱心に参加していました。

参加した子どもたちからは「デジタルの中の絵ではなく、現実の紙に描けるのがすごかった（C コース：プログラミングで遊ぼう学ぼう：ロボットでお絵かきをしよう！）」「新しいことができて面白かったし、いろいろな道具の使い方を知ることができた（I コース：ひとりでできるもん！ Sewing 編）」「かたと組手（くみて）がとてもかっこよかった（N コース前半：パワーアップ大作戦！ ～空手で体を動かそう～）」などの感想が寄せられました。

プログラムを実施した学生からは、「普段実際に子供たちとかかわる機会は少ないため、貴重な時間を過ごすことができたし、子供たちのパワーを感じることが出来てとてもよかった」「体験を通して笑顔になってくれた際にとても嬉しく感じ、また、試行錯誤している姿を見てうまく支援したいと思った」などの感想がありました。

竹チップでカブトムシを育てよう！
～冬の幼虫探し～

切って繋げるバンブーロード
@附属高校

わくわく！不思議（ふしぎ）な科学
実験教室（かがくじっけんきょうしつ）

ひとりでできるもん！ Sewing 編

人形劇を見にいこう！

アンアンあんこ！
～オリジナルどら焼きに挑戦～

パワーアップ大作戦！
～空手で体を動かそう～

高校生と遊ぼう！笑顔！元気！
わくわくスポーツ教室

スペシャルキッズマジックショー

大学生とミニ運動会！

簡単 DIY！おしゃれなランタンを作ろう

プログラミングで遊ぼう学ぼう
ロボットでお絵かきをしよう！

愛教ちゃんコース　一つのプログラムをじっくり体験！

- Ⓐ 電動車いすサッカーを体験してみよう！
- Ⓑ プログラミングで遊ぼう学ぼう ロボットが働く未来の劇をつくろう！
- Ⓒ プログラミングで遊ぼう学ぼう ロボットでお絵かきをしよう！
- Ⓓ 切って繋げるバンブーロード @附属高校
- Ⓔ 愛教の馬に会いに行こう！
- Ⓕ フィルムで体験「ココロを保存」
- Ⓖ 大学生とミニ運動会！
- Ⓗ ひとりでできるもん！ Cooking 編
- Ⓘ ひとりでできるもん！ Sewing 編
- Ⓙ 高校生と遊ぼう！笑顔！元気！わくわくスポーツ教室
- Ⓚ 竹でご飯が炊けるかな？
- Ⓛ アンアンあんこ！～オリジナルどら焼きに挑戦～

エディコース　二つのプログラムをよくばり体験！

- Ⓜ 未経験者大歓迎！低学年 AUE サッカースクール ＆ リズムにのって楽しく体を動かそう！
- Ⓝ パワーアップ大作戦！～空手で体を動かそう～ ＆ 未経験者大歓迎！高学年 AUE サッカースクール
- Ⓞ 人形劇を見にいこう！ ＆ 扇を持って舞ってみよう！能楽の世界へようこそ！

スペシャルキッズ マジックショー ＆ 《P・Q・R・S コース 共通プログラム》

- Ⓟ 竹チップでカブトムシを育てよう！～冬の幼虫探し～
- Ⓠ わくわく！不思議（ふしぎ）な科学実験教室（かがくじっけんきょうしつ）
- Ⓡ 竹のおもちゃをつくろう！
- Ⓢ 簡単 DIY！おしゃれなランタンを作ろう

活動レポート 2

●学生・教職員・地域の協働で多様な興味関心を広げる機会を増加

井ケ谷・西境北東子ども会の新入生歓迎会を開催しました

6 月 12 日（日）、井ケ谷・西境北東子ども会新入生歓迎会を開催し、井ケ谷子ども会 83 名、西境北東子ども会 15 名、そのほかの地区から 6 名、教職実践演習や地域貢献活動により参加した学生 33 名の合計 137 名が参加しました。

同じチームになったみんなで自己紹介

子どもたちは 1 ～ 3 年生、4 ～ 6 年生の 2 グループに分かれて、第 1 体育館と第 2 体育館でさまざまなスポーツを学生と一緒に体験しました。1 ～ 3 年生はドッジボール、ソフトラクロス、シュートゲーム、4～6年生はドッジボール、ミニサッカー、シュートゲームを各 30 分間の合計 90 分実施しました。

参加した子どもや保護者からのアンケートでは「強いお兄さんや優しいお姉さんがいて、友達とも遊べて楽しかった」「とにかく子どもたちが楽しそうで元気いっぱいだった。学生さんがコートの外で待機している子どもたちにも声を掛けてくれていた」などの声が、学生からは「異学年交流の経験が今までなかったので参加することができてよかった」「子どもたちに楽しんでもらえ、自分も楽しめた」などの感想がありました。

負けないぞ！ドッジボール！

シーホース三河・FC 刈谷・トヨタ自動車サンピエナと『ミックススポーツフェスタ』を開催しました

12 月 18 日（日）、「ミックススポーツフェスタ～種目を超えて子どもたちにスポーツの機会を～」を開催し、小学校 1 年生から 4 年生までの 71 名が参加しました。参加した子どもたちは 3 つのグループに分かれ、バスケットボール・サッカー・バレーボールの 3 種目をローテーションしながらすべて体験しました。

アタックに挑戦だ！（バレーボール）

バスケットボールはシーホース三河 U18 ヘッドコーチの高島一貴氏、サッカーは FC 刈谷アシスタントコーチ兼スクール・アカデミーコーチの岸本昌蔵氏、バレーボールはトヨタ自動車サンピエナ監督の太田有紀氏を講師に迎え、加えて各企業の選手やスタッフおよび本学学生がサポートに入りました。

参加した子どもや保護者からのアンケートでは「好きな競技以外も楽しいことが分かった」「3 種目も一流の選手や監督から教わることができたし、補助の学生もとても明るくて親切でした」「チーム競技を初めてやって、みんなでやることが楽しかった」などの感想がありました。

ゴールに向かって GO ！（サッカー）

ドリブルをやってみよう！（バスケットボール）

サッカークラブ豊田 AFC と『サッカーフェス』を開催しました

8 月 7 日（日）、サッカー教室等の活動を行っているサッカークラブ豊田 AFC の協力のもと、『サッカーフェス』を開催しました。

サッカー大会での試合の様子

サッカー大会とサッカースクールの 2 部で構成され、サッカー大会では、地域のサッカー教室に通う小学校高学年の 3 チーム 50 名が参加し、日ごろの練習の成果を発揮し、たくさんの保護者の声援をうけ、熱戦を繰り広げました。

サッカースクール（小学生低学年）の練習風景

サッカースクールでは、未就学児童（2 才から 5 才）の 20 名と小学校低学年の 26 名が参加し、ボールを使った運動から、シュート練習、ミニゲームを実施しました。

実施後のアンケートでは、「たくさんの友達と楽しそうに練習していた」「コーチが年齢に合わせて指導してくれたことが良かった」といった感想があり、保護者からも好評なものとなりました。

サッカースクール（未就学児童）でミニゲームを楽しむ様子

活動レポート 3

●遠足や校外学習等の新たな目的地としての提案

東栄小学校と佐久島しおさい学校が本学を訪問しました

12 月 7 日（水）、東栄町立東栄小学校の 1 ～ 4 年生 57 名と引率教員 7 名、西尾市立佐久島しおさい学校の 1 ～ 6 年生 13 名と引率教員 5 名の計 82 名が本学を訪問しました。奥三河の山に囲まれた東栄小学校と、三河湾に浮かぶ佐久島しおさい学校の子どもたちが交流するこのイベントは「ようこそ！山と海の子どもたち」と名付けられ開催されました。

一足先にバスで大学に到着した佐久島しおさい学校の子どもたちは、生活科選修の学生によるワークショップ「バンブーランタンを作ろう」に参加しました。東栄小学校の子どもたちがバスで到着した後、両校の子どもたちは「体つくり運動」と「ダンス」の 2 つのコースに分かれ、学生との交流を楽しみました。

フラフープをくぐって次の人につなげるぞ！（体つくり運動）

昼食後は講堂前で両校の集合写真を撮影し、佐久島しおさい学校の子どもたちと野田学長、愛教ちゃん・エディに見送られながら東栄小学校の子どもたちは名残惜しそうに帰路につきました。その後、佐久島しおさい学校の子どもたちはその日の思い出を俳句にするワークショップに参加し、短冊にしたためました。バンブーランタンと短冊をお土産にし、佐久島しおさい学校の児童も帰りのバスに乗り込み帰っていきました。

参加した児童からは「わかりやすかったし大学生やしおさい学校の子ともなかよくできて楽しかった」という感想があり、学生からは「1 人でできると言われた時に、全てを支援しようとしていましたが、それは違うと気づくことができた」という感想が寄せられました。引率教員からは「へき地の学校の児童にとっては、とても良い経験でした。愛教大としてもぜひ、このような活動を増やし、継続してほしい」というお言葉をいただきました。

2 人組でアルプス一万尺♪（ダンス交流）

井ケ谷幼児園の園児がどんぐり拾いをしました

10 月 28 日（金）、井ケ谷幼児園の 5 歳児 38 名と 4 歳児 54 名と引率教諭 10 名、大学からは教員 1 名とボランティア学生 4 名を含む合計 107 名がどんぐり拾いをしました。

どんぐり拾いがはじまると園児達は思い思いにどんぐりや葉っぱ、木の実などを拾っていました。園児達は拾ったものを教員やボランティア学生に見せて、「見て！見て！たくさん拾ったよ！」「これは何の実？」などと積極的に話しかけていました。

参加した園児からは「小さいどんぐりや大きなどんぐり、ぼうしつきのどんぐり、いっぱい見つけられて嬉しかったよ！」「大学生のお姉さんと話したことが、たのしかった！」などの感想があり、また、引率した教諭からは「秋の自然物をたっぷり拾わせていただき、ありがとうございました。子どもたちが夢中になって、探す姿が印象的でした」というお言葉をいただきました。学生ボランティアからは「道路を歩く時も先生方が周りに気を配り子どもたちの安全を第一に考えている姿を見て責任感の高さを感じた」という感想がありました。

ここには何があるのかな？

私のどんぐりも見て！見て！

富士松北小学校が来訪しました

2023 年 2 月 21 日（火）、刈谷市立富士松北小学校の生活科授業「町探検」の一環として「あいきょうてくてくきらきら大ぼうけん！」を本学キャンパス内で実施し、同校 2 年生 71 名と引率教員 5 名、本学の教員 2 名と生活・総合専修の学生 12 名合わせて 90 名が参加しました。

わー、食べられちゃうぞー！

引率教員や学生とともに大学に到着した子どもたちは、はじめに第一共通棟で本学のマスコットキャラクター「愛教ちゃん」と「エディ」に迎えられました。初めの会で学生から説明を受け、地図とクイズ用紙を冒険バッグに入れた後、グループに分かれて大冒険をはじめました。美術・技術実習棟では、広場や玄関ホールに並ぶ作品を見て「この猫かわいい！」「ドラゴンもいるよ！すごーい！」と引率の学生に感想を話したり、みんなで一緒に作品のポーズを真似したりしながら冒険を楽しみました。その他、附属図書館や第二共通棟、講堂などの施設を冒険しながらクイズの答えとなるキーワードを見つけた子どもたちは、終わりの会で「愛教ちゃん」と「エディ」のシールをもらい、冒険バッグに大切にしまい込みました。最後に講堂前の広場で「愛教ちゃん」「エディ」とともに集合写真を撮り、子どもたちは「また来るねー！」「たのしかったー！」と言いながら小学校へと帰りました。

像と一緒にはい、ポーズ☆

戦略 1

●遠足や校外学習等の新たな目的地としての提案

附属岡崎小学校の３・４年生が本学を訪問しました

4 月 20 日（水）、附属岡崎小学校の 3・4 年生がペア遠足で本学を訪れました。小学生 176 名と引率教員 6 名がプログラム体験や授業参加などを通じて楽しい時間を過ごしました。

優しく馬に触れてみよう

プログラム体験では 3 つのグループに分かれ体験活動を行いました。「マジックショー」では本学職員が繰り広げるマジックに目を輝かせ、簡単にできるマジックを教えてもらいペア同士で披露しました。「馬とのふれあい体験」では馬術部部員の説明を受け、間近で見る馬の大きさと迫力にどきどきしながら、実際に撫でてみたり餌をあげたりしました。「図書館見学」では職員の案内のもと、キッズライブラリーで気に入った図書を手に取り、大学史資料展示室などの展示資料に興味深そうに見入っていました。

長縄に入るタイミングはいつかな？

その後、5 つのグループに分かれ、「なわとび実技」、「リズムダンス実技」、「手軽な運動遊び」、「大学探検」、「新聞を使ったワークショップ」の授業に参加しました。どの授業も学生と一緒に楽しそうに取り組みました。

授業後は AUE スクエアに移動し、思い思いの場所で昼食を取りました。最後に講堂前で愛教ちゃんとエディと一緒に記念撮影を行い、大学に自生しているカブトムシの幼虫をお土産として持ち帰りました。

お兄さんにインタビューしよう

附属特別支援学校の中学部が本学を訪問しました

10 月 28 日（金）、附属特別支援学校の中学部の 1 年生 3 名、2 年生 3 名、3 年生 5 名、引率教員 8 名の計 19 名が本学を訪問しました。

バスで大学に到着した生徒たちは学生と交流するため造形ワークショップ「色のふしぎを楽しもう」の会場に移動しました。生徒と学生で班を作り、不思議で楽しい色水作りで大いに盛り上がりました。

「おいしそうだけど絶対に飲んじゃだめだよ！」と先生からの説明

きれいな色水がたくさんできたよ！

色水作りを楽しんだ後、AUE スクエアにて附属特別支援学校の生徒が作った制作物（クリスマスグッズやクルミボタンマグネットなど）の販売を体験しました。みんなで元気にお客さんを呼び込むと、野田学長やたくさんの学生が買い物に来てくれ、満員御礼の大忙しとなりました。

生徒におすすめの商品を聞く野田学長

生徒からは「（制作物の販売で）お客さんが売り物のコースターをおしゃれだと喜んでくれてよかった」という声があり、ワークショップに参加した学生からは「想像以上に生徒が教材や教具を丁寧に扱っていた事から、日々の適切な支援の大切さを学び、それを踏まえてたくさんの教材に触れる機会を作っていかなくてはいけないと感じた」という感想がありました。引率の教員からは「学生が生徒に応じて対応を工夫してくれたので、多くの生徒たちが楽しんで参加できた」というお言葉をいただきました。

附属幼稚園の園児がさつまいも掘りをしました。

立派なさつまいもを収穫

10 月 24 日（月）、自然観察実習園で、附属幼稚園 4 歳児クラス（赤組、青組）の園児達が「さつまいも掘り」を行いました。担任教諭、養護教諭らと共に貸切バスで来学し、本学の教職員と幼児教育、技術の学生含め総勢 100 名近くが参加しました。

実習園の作業員からさつまいもの成長の仕方や、備中鍬を使ったさつまいも掘りについて説明があった後、野田学長から「さつまいもが大きく育って、早く皆さんに掘り起こしてほしいと顔を覗かせていますよ。大きなさつまいもをたくさん収穫してください」とあいさつがありました。

園児達が意気揚々とスコップを手にしたところで、附属幼稚園の教諭から「大きなお芋を掘るぞー」と掛け声がかかり、園児達の「エイ、エイ、オー」と元気いっぱいな声を合図に、さつまいも掘りがスタートしました。園児の身長を超えるさつまいもの蔓を引っ張り、顔と同じぐらいに大きく育ったさつまいもを収穫し、嬉しそうにさつまいもを持ち帰りました。園児達にとって非常に貴重な体験の場となったようです。

大盛り上がりのさつまいも掘り

活動レポート4

●大学に自生している竹を活用したアクティビティーの創出と関連した体験的な教科学習

●大学のリソースの再発見と有効活用、課題解決の推進

本学初のクラウドファンディング2件が成立・実施しました

2022年2月1日（火）～3月31日（木）の期間で実施していた本学初のクラウドファンディング 2 件が目標額を達成し成立しました。成立した事業は子どもキャンパスプロジェクトが実施する「竹チップで子どもたちにカブトムシに触れる体験を。」と馬術部が実施する「子どもたちに『馬（サラブレッド）とのふれあい体験会』を提供したい！」の 2 件です。カブトムシに触れる体験には 82 人総額 119 万円の支援を、馬術部には 81 人総額 115 万円の支援をお寄せいただきました。

募集期間中にはご寄附をくださった方々はもちろんのこと、チラシの配布にご協力いただいた方や心温まる応援メッセージをお寄せくださった方など、多くの皆さまにご支援いただき、本学が地域より愛され期待されている大学であることを改めて実感することができました。いただいた支援を活用して、カブトムシの捕獲イベントや馬とのふれあい体験会、竹林整備体験会を6回程行いました。

CBC ラジオの取材を受ける様子

「カブトムシのつかまえかたおしえます！」を開催しました

8 月 9 日（火）、クラウドファンディング「竹チップで子どもたちにカブトムシに触れる体験を。」の事業の一環として、キャンパス内でカブトムシを捕まえるイベント「カブトムシのつかまえかたおしえます！」を開催しました。講師として佐藤治氏（愛知県立瀬戸つばき特別支援学校教諭）をお招きし、近隣の子どもたちとその保護者 13 名、学生ボランティア 7 名の合計 20 名が参加しました。

カブトムシはどこにいるのかな？

最初に教室に集合し、佐藤先生からのカブトムシが集まりやすい樹や採集する際の注意事項などの説明があり、子どもたちがまだかまだかとそわそわし始めたところで外に繰り出しました。カブトムシが集まりそうな樹のある場所まで移動し、佐藤先生の説明を聞きながらみんなでカブトムシを探しました。教員や学生が見守る中、子どもたちはたくさんのカブトムシを見つけることができ大興奮の様子でした。教室に戻るとクラウドファンディングで集めた資金で購入した飼育セットが子どもたちに 1 セットずつプレゼントされ、子どもたちは大事そうに抱えて家に持ち帰りました。

あんなところにたくさんいる！

参加した子どもたちからのアンケートには「大学にたくさんのカブトムシがいてびっくりした」「お兄さんお姉さんが親切にしてくれて安全に参加できてうれしかった」などの声があり、学生ボランティアからは「危機管理をしつつ、大事なことを伝えている先生たちがかっこよかった」という感想がありました。

刈谷市内の幼児園・保育園にカブトムシの幼虫を贈りました

6 月 2 日（木）・3 日（金）、刈谷市内の幼児園・保育園にカブトムシの幼虫を贈りました。

今回の寄贈は、クラウドファンディング「竹チップで子どもたちにカブトムシに触れる体験を。」の事業の一環として子どもたちがカブトムシと触れ合う機会を提供するもので、井ケ谷幼児園、小高原幼児園、かりがね保育園、かりがね幼児園、慈友保育園、富士松北保育園、富士松北幼児園、富士松南保育園、富士松南幼児園、平成幼児園の刈谷市内の 10 園にカブトムシの幼虫が入ったプランターを贈りました。

プランターをのぞき込む園児たち

園児たちにお話しする野田学長

子どもたちはプランターが運び込まれると「何の土だろう？」「これなぁに？」と興味を示し、職員の説明に耳を傾けました。プランターの中からカブトムシの幼虫を見つけると、大喜びで幼虫に触れ、手に乗せたり動きを観察したりしました。

子どもキャンパスプロジェクトは、未来共創プランの中でも重点プロジェクトの一つです。2021年度の試行を経て、今年度は本格実施をしました。私の予想をはるかに超えた多くの方面の方々にご協力をいただき、確かな手ごたえを感じています。参加してくれた子どもたちが、対象への関心を高めると共に、世話をしてくれた皆様に憧れ、教師を志してくれたらと願っています。

学長トーク♪

戦略 2
教育のプラットホーム構築プロジェクト

教育リソースデータバンクを設置し、教育現場の課題解決に貢献する教育のプラットホームを構築します。

●ケーブルテレビ、教育委員会、学校現場と連携し、地域の教材コンテンツを作成
●教育委員会、学校現場と連携し、教員研修で活用できる授業動画を作成
●愛知県内のケーブルテレビと地域の教育委員会、小中学校をつなぐ教育のプラットホームを構築

プロジェクトメンバー
真島 聖子　小塚 良孝　梅田 恭子　青山 和裕　土屋 武志　野平 慎二　繁野 美奈　佐藤 将司

活動レポート 1

●シンポジウム「新たな教員研修における教育大学への期待と果たすべき役割―多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築に向けて―」を開催

2023 年 3 月 4 日（土）、シンポジウム「新たな教員研修における教育大学への期待と果たすべき役割―多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築に向けて―」を本学で開催しました。教育行政職員 33 名、学校関係者 33 名、大学関係者 23 名高校生 1 名、合計 90 名が参加しました。

開会のあいさつをする野田敦敬学長

文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課
教員養成企画室室長　小畑康生氏による基調講演

2021 年度に引き続き 2 回目である今回のシンポジウムは、2022 年 7 月 1 日より教員免許更新制が発展的に解消されたことを受け、教師や学校のニーズ・課題に応じた、個別最適で協働的な学びを主体的に行う「新たな教師の学びの姿」の早期実現をめざす文部科学省の方針はどのようなものなのか、先進的な教員研修を行う大阪教育大学の成果と課題は何か、教育委員会、教育センター、学校管理職が教育大学に期待する新たな教員研修はどのようなものなのか、今後、新たな教員研修に関して、愛知教育大学が果たすべき役割とは何かについて、基調講演、パネルディスカッション、グループディスカッションを通して、参加者と共に考えました。

第 I 部では、最初に、文部科学省総合教育政策局教育人材政策課教員養成企画室室長の小畑康生氏から「『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方について」と題し、基調講演が行われました。

次に、パネルディスカッションが行われ、大阪教育大学教授の高橋登氏及び同大学特任教授の堀真寿美氏から「新たな教員研修における教育大学への期待と果たすべき役割　OKUTEP が目指すもの」、みよし市教育委員会教育長の増岡潤一郎氏から「新たな教員研修における教育大学への期待と果たすべき役割～本市の愛教大連携を振り返って～」、愛知県総合教育センター研修部長の榊原将道氏から「大学との連携による多様な研修プログラムの展開」、幸田町立坂崎小学校校長の都築孝明氏から「『新しい教師の学びの姿』の実現を目指す新研修制度の課題と期待」について情報提供があり、参加者からの質疑応答が行われました。

パネルディスカッションの様子

大阪教育大学教授　高橋登氏

大阪教育大学特任教授　掘真寿美氏

みよし市教育委員会教育長　増岡潤一郎氏

愛知県総合教育センター研修部長
榊原将道氏

幸田町立坂崎小学校校長　都築孝明氏

グループディスカッションの様子

第Ⅱ部では、参加者は 7 ～ 8 名のグループに分かれ、ディスカッションを行いました。「新たな教師の学びの姿」を実現するために、「自律的・主体的に学び続ける教師を後押しする研修とは？」「ワクワク・ドキドキ・おもしろい研修とは？」「参加したくなる研修とは？」「教師のクリエイティビティを発揮するには？」という 4 つの問いが参加者に提示されました。全体共有の場では、各グループから新たな研修に向けて参考になる意見が発表されました。

シンポジウム後のアンケートでは、「主体的な学びを先生たち自身ができるように魅力的な研修を作り上げることが大切だと思いました」、「強みを活かした研修、心を動かす研修にしたいが、現場の多忙化、人材不足があり、また学びたいものも違いがあり、研修の持ち方が難しい」、「大学の先生はやっぱりすごい、と思った研修も過去にたくさんありました。大学教員の負担もあるので、大きな一回よりも、研修した後もオンラインやチャットで、定期的に相談できるような、学校現場と大学教員の息の長い連携ができるとよいなと思います」などの感想が寄せられました。

活動レポート 2

●西尾張 CATV と津島市教育委員会との連携

西尾張 CATV と津島市教育委員会の連携による「津島の達人ジュニア選手権」を参観しました

本選の様子

表彰式の様子

2023 年 2 月 12 日（日）、津島市児童科学館において「第 10 回津島の達人ジュニア選手権」が開催されました。津島にちなんだ歴史クイズが出題される本大会には、27 組 54 人の小学 5・6 年生が参加し、予選（筆記テスト）を経て、上位 15 チームによる本選（○× クイズと記述問題）では、熱い戦いが繰り広げられました。

「津島の歴史と文化を愛し、津島のまちのことを考える大人になってほしい」という願いが込められた「津島の達人 ジュニア選手権」は、第 10 回大会を記念して、予選と本戦の模様が西尾張 CATV で生中継されました。

大会後、津島市教育委員会の浅井厚視教育長と意見交換を行いました。津島市教育委員会では、2022 年度に 7 つの授業番組を西尾張 CATV と協働して制作しました。そのノウハウを生かして、2023 年度は津島市教育委員会と西尾張 CATV と本学が連携し、小中学校の教員と大学の教員が一緒に授業づくりに取り組み、西尾張 CATV により撮影・編集されたコンテンツを教員養成の授業で活用して、感想を授業者にフィードバックしたり、教員研修に活用できるようにアーカイブ化したりする計画について話し合いました。

生中継で放送！

2023 年度の実施に向けて、ケーブルテレビと教育委員会と大学が連携して、教育現場の課題解決に貢献するコンテンツの開発に取り組んでいきます。

2022年7月に教員免許更新制が廃止されました。今後は、研修履歴の記録と研修受講の奨励により、教師自身や学校の役割に応じた研修が求められます。戦略２では、これに先駆けて授業や研修に役立つコンテンツを提供しようと準備をしてきました。３月４日のシンポジウムを踏まえ、教育のプラットフォーム構築を進めたいと思います。

戦略 3
教職の魅力共創プロジェクト

よりよい教育の未来につながる教職の魅力を共に創り出し、発信します。

●「教職の魅力共創シンポジウム」を通して、多様な立場の方々との意見交換を行う。
●教職の魅力を伝えるリーフレットや動画コンテンツを作成する。
●多様な立場の方々から原稿を募集し、シリーズ叢書『教職の魅力共創』を刊行することで、地域社会と共によりよい教育の未来につながる教職の魅力を共創する。

プロジェクトメンバー
真島 聖子　小塚 良孝　宮川 貴彦　竹川 慎哉　田口 達也　繁野 美奈　佐藤 将司

活動レポート 1

●大学改革シンポジウム「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」を開催

11 月 26 日（土）、教育問題に関心の高いメディア関係者と学校関係者（教員、生徒、保護者）を招いて、大学改革シンポジウム「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」を開催し、愛知県内の小・中学校の学校関係者や本学の学生、教職員、地域の方々など 177 名が参加しました。

本シンポジウムでは、「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」というテーマを設定し、教育報道の現状をあらためて見つめなおし、教職をめぐる困難な現状を少しでも改善、回復させるにはどのような報道スタンスが必要か、教育の現状を広く共有し、教育の未来を共に創る取り組みについて語り合う機会としました。

第一部では、シンポジストに、メディア関係者として、株式会社 CBC テレビの大石邦彦氏、株式会社キャッチネットワークの上西将寛氏、株式会社中日新聞社の加藤祥子氏、教育関係者として、江南市立布袋小学校の早川浩史校長、西尾市立平坂中学校の兼子明校長を招き、野田敦敬学長と共に「教職をめぐる困難な状況を回復させるために、メディアや学校、大学が社会に向けてどのような発信をしてきたか」についてパネルディスカッションを行いました。

株式会社CBCテレビ　大石邦彦氏

株式会社キャッチネットワーク　上西将寛氏

株式会社中日新聞社　加藤祥子氏

江南市立布袋小学校　早川浩史校長

西尾市立平坂中学校　兼子明校長

野田敦敬学長

グループディスカッションの様子

第二部では、「どのような報道や発信を行うと学校に対する理解が深まり、よりよい教育につながるのか」について、小中高大学生、教職員や保護者、地域の方々とグループディスカッションを行い、「特別なことよりも学校における日常の幸せ（先生、地域、子どもたちの頑張りの成果）を報道してほしい」「学校の取り組みをじっくりと報道することで、大人だけでなく子どもも教育を考えられるようにしていく」といった意見が取り上げられました。

終了後の参加者からのアンケートでは「一部の人だけが教育に関する問題を真剣に考えるのではなく、社会全体として考え、対抗策を見つけ、早急に行動に移していくことが必要だと感じた」「なかなか意見を聞くことができないさまざまな立場の方々の話を聞くことができ、とても勉強になった」などの感想が寄せられ、幅広い世代や異なる立場の人々が集い、意見を交流し、お互いの考えを知ることの良さや必要性を参加者が実感できるシンポジウムとなりました。

活動レポート 2 ●教員採用試験を受験した４年生を対象としてアンケート調査を実施

教職の未来共創プロジェクトでは、2021 年度より本学キャリア支援課と連携をしながら、調査研究を実施しています。2021 年度は、本学でも見られている教員採用選考試験（以下「採用試験」という。）を受験する学生数の減少傾向の原因を探るために、採用試験を受験しなかった本学 4 年生を対象としたアンケート調査を実施して、教職を回避するに至った理由を類型化しました。そして、2022 年度については、採用試験を受験した本学 4 年生を対象として、教職を志望するという意思決定に影響した事柄を明らかにするために、調査を実施しました。

キャリア支援課が実施している進路決定調査にともなう「採用試験を受験した学生へのアンケート」には、2023 年 2 月 13 日の時点で合計 308 名の学部 4 年生から有効回答を得ました。その内、「採用試験を受験すると決めた時期はいつですか？」という設問に対して、「入学前から教員志望だった。」と回答した 4 年生は 265 名、「入学後、採用試験の受験を決めた。」という学生は 43 名でした。そこで、「『教員になりたい』という意思決定に影響した項目を、有力な順に 6 つまで回答してください。」という設問の第一理由について、教職を入学前に志望した学生と入学後に志望した学生に分けて示した回答結果は以下の表のとおりでした。

表：「教員になりたい」という意思決定に影響した項目の第一理由の割合

	実習体験	授業内容や教員の話	友人との話、周囲の雰囲気	親との話し合い	アルバイト、ボランティア等の体験	先輩からの話（教職関係）	マスコミ等の報道内容	その他
入学前	28.1%	20.8%	8.4%	6.2%	3.6%	1.5%	0.4%	27.7%
入学後	53.5%	11.6%	11.6%	4.7%	9.3%	2.3%	0.0%	7.0%

上記の回答結果から、教職を入学前に志望した学生と比較して、入学後に志望した学生は実習体験を意思決定に影響した第一の理由として回答する傾向が強いことが分かりました。また、教職を入学前に志望した学生の回答において「実習体験」の次に割合の高い「その他」と「授業内容や教員の話」と回答した学生は、小学校から高校までに出会った憧れの先生の影響を挙げる傾向が強いことが、第一理由についてより具体的な記入を求める自由記述設問の回答結果から分かりました。

本アンケート結果で示唆された教員志望の動機付けの内実をより詳しく捉えるために、教職を入学後に志望した学生へのインタビュー調査と入学前に志望した学生に対する追加アンケート調査を現在実施しています。これらの調査結果と昨年度の調査結果を合わせることで、学生の個別事情に対応することができるキャリア支援のあり方について検討して参ります。

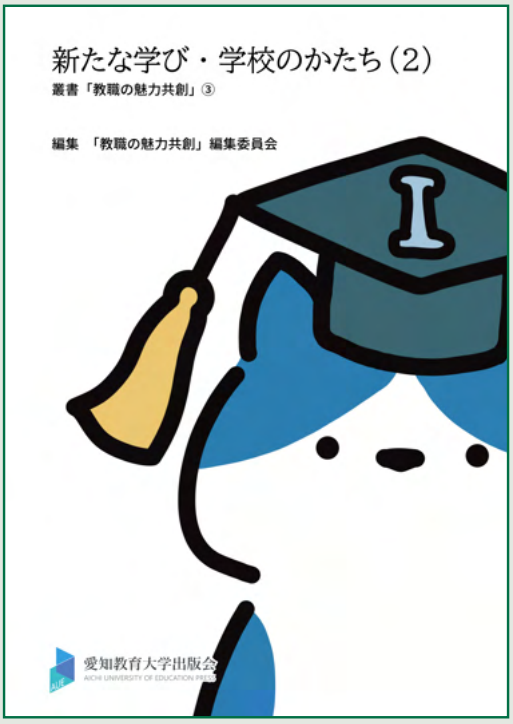
活動レポート 3

●叢書『新たな学び・学校のかたち（2）』と『写真でひと言 ー体育の魅力共創ー』を刊行

2022 年度の叢書「教職の魅力共創」は、社会共創編『新たな学び・学校のかたち（2）』、教科領域編『写真でひと言 ー体育の魅力共創ー』を刊行しました。

シリーズ概要

愛知教育大学（主催「教職の魅力共創」編集委員会 委員長 野田敦敬）では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、叢書シリーズを立ち上げました。
本シリーズには、学校教育や教職について広く考えを求める「社会共創編」と、各教科等の視点から多面的な教職や教材等の魅力を共創・共有する「教科領域編」があります。



叢書「教職の魅力共創」③

新たな学び・学校のかたち（2）

著　者	編集：「教職の魅力共創」編集委員会
発行日	2023 年 3 月発行
定　価	1,000 円（税込）
出　版	愛知教育大学出版会

社会共創編『新たな学び・学校のかたち（2）』は、教職をめぐる社会の声を聴き、対話の場を組織し、新たな学び・学校のかたちを発信します。本書は、４部構成となっています。巻頭は、「愛知教育大学創基 150 周年特別寄稿」、第 I 部は、「地域に根差した学び・学校」、第 II 部は、「多様性と学び・学校」、第III部は、「豊かな学び・学校のために」と多岐に渡ります。教師の仕事とその魅力は多面的であり、本書を通じて多様な立場からの問題提起と読者との対話が繰り広げられることを期待しています。

叢書「教職の魅力共創」④

写真でひと言 ー体育の魅力共創ー

著　者	監修：「教職の魅力共創」編集委員会 編集：愛知教育大学体育学会
発行日	2023 年 3 月発行
定　価	990 円（税込）
出　版	愛知教育大学出版会

教科領域編『写真でひと言 ー体育の魅力共創ー』のコンセプトは、体育科の視点から多面的な教職や教材等の魅力を共創・共有することです。子どもや教師の生き生きとした様子が伝わってくる一コマの「写真」に、授業に込められた願いや工夫を「ひと言」で表しました。本書の「写真でひと言」をご覧になることで、体育の魅力を共に創り共有するきっかけの一冊になることを願っております。

活動レポート 4

●教職の魅力共創を伝えるコンテンツを作成

教職の魅力を伝えるリーフレットや動画コンテンツを作成しました。

リーフレットや動画コンテンツの制作・発信を通じて、教職をめぐる社会の声を聴き、対話の場を組織し、新たな教職の魅力を共に創ることを意図しています。今年度発行のリーフレットでは、シンポジウム「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」を特集しました。また、多様な観点や立場から、教職の魅力について語るインタビュー動画を制作し、「教職の魅力共創」ウェブサイトに掲載しました。

Aichi University of Education

教職の魅力共創
愛知教育大学　未来共創プラン

愛知教育大学
NEWS Vol.4

2023年3月31日発行

シンポジウム「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」を開催

2022年11月26(土)、愛知教育大学講堂にて、シンポジウム「学校・メディア・大学で共創する教育の未来」が開催され、対面とオンラインで計177名の参加がありました。本シンポジウムは、国立大学協会の共催による大学改革シンポジウムとして開催されました。登壇者は、大石 邦彦 氏(CBCテレビニュースアンカーマン)、上西 将寛氏(キャッチネットワーク記者・ディレクター)、加藤 祥子氏(中日新聞社教育報道部記者)、早川 浩史氏(江南市布袋小学校校長)、兼子 明氏(西尾市立平坂中学校校長)、野田 敦敬氏(本学学長)です。前半は6名のシンポジストによるパネルディスカッション、後半は、中学生、高校生、現職教員、さらにはコミュニティ・スクールの運営に携わっている地域の方など、実に多様な参加者によるグループディスカッションが行われました。

大石 邦彦 氏　兼子 明 氏　上西 将寛 氏　野田 敦敬 氏　加藤 祥子 氏　早川 浩史 氏

野田敦敬学長の挨拶に続き、小塚良孝副学長より本学が進める「教職の魅力共創」プロジェクトにも触れながら、教職に関わる情報共有と共創を目指すことが本シンポジウムの趣旨であると説明がありました。

続いて、司会者が提示したテーマに応答するかたちで各シンポジストからご提案をいただきました。「教育報道の現状についてどのように考えるか?」「報道機関またはジャーナリストとしてどのように報道してきたか?」というテーマについて大石氏は、コロナ禍のなかで部活の大会が中止された中学生の声を聞いて名古屋市長に陳情を訴えた自身の報道とその後に受けた批判を取り上げ、何かに光を当てると別のところに影ができること、しかし「影」の部分にものごとの本質があり、その部分を照らしていくことが報道の役目だと感じていると述べました。上西氏は、自身の作成した地域ドキュメンタリー番組を紹介しながら、地域に密着し、地域の課題を発信していくことが求められていると指摘しました。加藤氏は、これまでどのような姿勢で教育問題の報道に向き合ってきたかを述べながら、権力を持つ人ではなく個人に焦点を当てるのが報道の役割であり、自らが記事を書くことで子どもたち、学校、社会にどのような影響があるのかを考えて発信していきたいと述べました。

「教育報道の現状についてどのように考えるか?」「どのような発信・情報共有をしてきたか(していきたいか)?」というテーマについては、早川氏、兼子氏、野田氏が応答しました。早川氏は、「現場の教員不足は非常に深刻であるが、教師が幸せじゃないと子どもは幸せになれない。地域の人との願いを共有していくことが重要だ」と述べました。兼子氏は、「過度に単純化された報道が多いように感じている。具体的な提言や共有ができる報道が必要ではないか。教師の存在まで否定するような報道よりも、実際の"声"を丁寧に拾っていただきたい」と指摘しました。野田氏は、メディアに登場する教育問題の見出しが非常にネガティブな印象を与える傾向について指摘し、そうした内容が教師を志望する学生らにどのように受けとめられるかを意識した報道を求めたいと述べました。

続いてパネリスト間の質疑応答では、「教師の質は下がっているのか?」という質問に対し、現職校長である早川氏や兼子氏から「今、教師になる人はかつてと比べると熱心な傾向がある。しかし、教師本来の業務に専念できない多忙な環境がある」「教師の経験値をカバーする環境、例えば中堅教員の少なさもあり若手教員に対する寛容なまなざしが少なくなっている」といった現状が語られました。

後半は、参加した中学生、高校生、現職教員、学生、大学教職員を6～7名のグループに分け、「どのような報道や発信を行うと学校に対する理解が深まり、よりよい教育の未来につながるのか?」というテーマについてディスカッションを行いました。本学教職員や学生のファシリテートのもと、非常に和やかな雰囲気でディスカッションが進められました。各グループの提案内容も具体的でユニークなものがありましたが、それ以上にこうした問題について多様な立場の人々が対話し、ヴィジョンを形成していくプロセスの大切さを示した場となりました。

後半グループ・ディスカッションの様子

1

教職の魅力共創リーフレット vol.4

#18 現職教員インタビュー
中部大学現代教育学部　深谷圭助先生

#19 現職教員インタビュー
愛知県立一宮聾学校　濱地航平先生

#20 現職教員インタビュー
名古屋市立堀田小学校　小出竜也先生

#21 学生インタビュー
愛知教育大学　島田真琴さん・鈴木花さん

教員不足は今や社会問題になっています。本学も入試改革、カリキュラム改革、キャリア支援等様々な手を打っています。しかし、根本的なことは、社会全体で教職の魅力を感じ、学校を支えてもらうことだと思います。ここに基盤を置いて「教職の魅力共創プロジェクト」を進めています。今後もより多くの方々を巻き込んで、新たな時代の教職の魅力を共創していきたいと思います。

戦略 4
グローバル化推進プロジェクト

協定校を始めとする海外の教育機関との連携を密にして、グローバル化に対応したプログラムを学部と大学院で整備します。

●海外協定校に赴き、研究者等の招待・派遣制度の整備について検討するとともに、海外の教育現場を視察することで教職員の国際理解研修を行う。
●教職大学院に入学した教育委員会派遣、附属学校教員が海外研修できる制度を構築することを検討する。

プロジェクトメンバー
岩山 勉　小塚 良孝　真島 聖子　北野 浩章　マイヤ，オリバー・ルードビッヒ　野平 慎二　ベネマ ジェームス　幅 良統
寺本 圭輔　加藤 信也　高木 遠慧　吉村 舞

活動レポート

●グローバル化に対応したプログラム整備に向けた第一歩

制度設計と世界各地での視察・協議

今年度は、戦略4の目的達成のため二つの活動を行いました。一つは、従来の招へい教員に関する規定を見直し、国際学術交流協定締結校の教員との共同研究を推奨する内容の規定改正の検討を進め、国際交流委員会にて制定したことです。これについては、次年度に試行し、次々年度からの本格実施を目指します。もう一つは、海外協定機関での活動です。前年度はコロナ禍の影響で一切渡航ができませんでしたが、今年度から日本政府もウィズコロナに舵を切ったことで海外視察・派遣を慎重かつ積極的に実施することができました。以下の4つの国での視察が終了しています。

1. インディアナ州立大学：研修プログラムを学校教育講座趙准教授が本学学生向けにアレンジしました。これを 2022年9月に実施するため参加者を公募しましたが、残念ながらプログラム成立に必要な人数が整わなかったため、次年度実施を見据えて小塚副学長（兼国際交流センター長）と外国語教育講座ベネマ准教授に大学院生を同行させ、同大学のプログラムを視察し、同大学プロボスト等と協議を行いました。

インディアナ州立大学でプロポスト及び関係者を表敬訪問

セントルイス歴史資料館でアメリカ幼児教育の歴史を学習

2. カンボジア国立教育研究所（NIE）とカンボジア教育・青年・スポーツ省を、教職員7名（岩山理事、小塚副学長、保健体育講座寺本准教授、縄田准教授、村松助教、養護教育講座山田准教授、国際企画課高木係長）と学生6名が訪れ、副大臣はじめ各関係者と今後の見通しについて意見交換等を行いました。

カンボジアで健康教育のワークショップを実施

シェムリアップの小学校でカンボジアトレーナーによる身体測定の実習

3. ドイツ・フライブルク教育大学へ教育ガバナンス講座マイヤー教授および理科教育講座幅准教授並びに学部学生３名を派遣しました。派遣先では、本学の教育支援専門職養成課程の学生を視野に入れた研修プログラムの実施に向けた試みとして、小学校、行政管区の学校局を訪問し、「チーム学校」という学校運営理念について学びました。

ドイツで学校博物館を見学

4. 韓国晋州教育大学校に真島学長補佐（未来共創プラン担当）と社会教育講座近藤教授が学生 3 名と共に訪問し、学生は附設初等学校で授業実践を行いました。

韓国晋州教育大学校附設初等学校での授業実践

5. 香港教育大学、インドネシア・スラバヤ大学にもプログラム開発のために学生を派遣しました。また、次年度の派遣事業に対する外部資金獲得のため、日本学生支援機構に支援の申請を行い、中国・陝西師範大学への派遣事業が採択されました。

引き続くコロナ禍で、2021年度は海外視察等ができませんでしたが、今年度は徐々に協定校に出かけ直接やりとりをすることができ始めています。次年度は、高騰する渡航費確保が課題ですが、当初の目的でもある教育委員会派遣の現職大学院生の見分を広げる上でも協定校への派遣を実施したいと思います。

学長トーク♪

戦略 5
共創的探究活動指導力育成プロジェクト

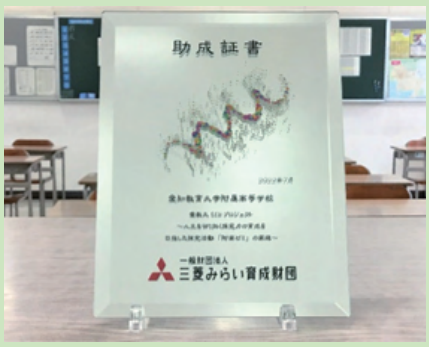
附属学校園と教職大学院との連携を強化し、教育の実践的研究拠点を構築します。

愛知教育大学と同附属高等学校との連携で実施される探究活動である「附高ゼミ」をフィールドとして、高校教員を目指す教職大学院生が「共創的探究活動指導力」を身に付けるとともに、高校教員が探究活動のファシリテート力をより高め、豊かにすることを目的とするプログラムの開発を行う。「共創的探究活動指導力」とは、多様な他者との共創、協働を通して探究活動を実践できる力である。
将来的には、本研究の成果を活かして、本学教員や附属高校の教員が総合的探究の時間に関する研修を共同実施したり、探究的学びの育成に関するハンドブックを作成したりすることを通して、教育の実践的研究拠点を構築する。

プロジェクトメンバー
杉浦 慶一郎　西牟田 哲哉　黒岡 孝信　小塚 良孝　石川 恭　真島 聖子　花井 和志　山根 真理　國府 華子　岩田 吉生
加藤 淳太郎　宮川 貴彦　齋藤 ひとみ　西野 雄一郎　小坂 俊介　小田原 健一　青山 昌平　佐藤 重成

活動レポート 1

●「附高ゼミ」が三菱みらい育成財団の助成事業として採択され、スタートしました



採択記念の助成証書

附属高等学校の新たな探究活動【愛教大 SEH プロジェクト～人生を切り拓く探究力の育成を目指した探究活動「附高ゼミ」の実施～】が、三菱みらい育成財団の助成事業として採択されました（全国 48 校）。
また、学長裁量経費で「大学と附属高校の連携による『共創的探究活動指導力』育成プログラムの開発」が採択されました。「附高ゼミ」をフィールドとして、高校教員を目指す教職大学院生が「共創的探究活動指導力」を身に付けるとともに、高校教員が探究活動のファシリテート力をより高め、豊かにすることを目的としてプログラムの開発を行っています。

附属高等学校２年生を対象に 10 月から、「附高ゼミ」がスタートしました。
生徒は 2 年生の後期に興味・関心に応じて自分の探究テーマを設定し、問い・仮説を立てて探究計画を作り、3 年生の前期まで 1 年間をかけて探究活動を進めていきます。その間、附属高等学校の教員がファシリテーターとなり、本学の教員と学生、大学院生が生徒の探究活動を支援する高大連携体制を構築しています。

学部生や大学院生が毎回サポートします

実践研究の内容は、附属高等学校教諭と大学教員の共著で『共創』に掲載予定です。

企業の方からも助言いただいています

高大教員と大学院生による支援体制

活動レポート２

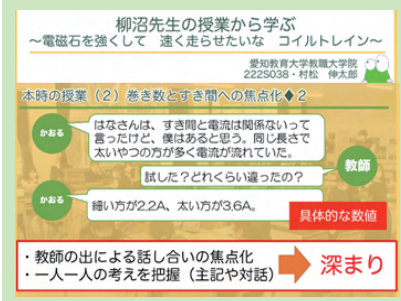
●教職大学院「研究・研修のデザイン」指導・助言シミュレーション

公開授業及び協議会に院生が参加

後期に開講された「研究・研修のデザイン」は、現職の大学院生が受講しています。彼らは、これからミドルリーダーとしての活躍が期待されており、今後、自分の専門あるいは専門以外の教科・領域でも指導的な立場になっていく教員ばかりです。そこで、授業の一環として、附属岡崎小学校の研究発表で公開された授業参観及び協議会に参加し、その授業についてプレゼン資料を作成、指導・助言のシミュレーションを行う学修を行いました。

指導・助言の様子はビデオ撮影し、附属岡崎小学校授業者の教諭に見ていただきました。附属岡崎小学校授業者の「先生（大学院生）の分析において、大変勉強になったところは、３つのキーワードです。教師が出る場面における支援の仕方を「視覚化」「自覚化」「共有化」という言葉で示していただいたことが、大変わかりやすく新たな発見になりました。３つの視点をもとにすれば、ゲーム中における教師の支援が明確化されると思いました。お示しいただいた「視覚化」「自覚化」「共有化」の３つの視点で「支援の本時案」を検討していこうと思います。」というコメントからは、研究分析の一助となったことがわかり、大学院生と附属岡崎小学校の両者にとって学びのあるものになったと思います。

今後は、大学院生一人一人が今回の学びを生かし、現任校、ひいては出身地区全体の教育活動の拡充の推進者として活躍することを期待しています。



指導助言 PP 資料作成

指導・助言シミュレーション

活動レポート３

●附属名古屋小学校の授業配信を活用した教職大学院の授業分析

附属名古屋小学校の笠巻教諭の社会科授業をリアルタイムで配信したものを活用して、教職大学院の授業「教材分析と授業実践開発Ａ(社会：小学校社会)」において、授業分析を行いました。小学校の授業配信後には、大学院生からの質問に対し、笠巻教諭が答えたり、本時の授業の解説を行ったりすることで、双方向で学びを深め合いました。

【大学院生の授業感想】

ゲノム編集と遺伝子組み換えの説明の時に、先生がわかりやすいように簡潔にまとめていました。この場面から、教師の説明力の大切さを学ぶことができました。

【笠巻教諭より】

今回は簡潔に「他の遺伝子を入れるかどうか」という点に絞って説明しました。他にも差異はありますが、それはこれから子どもたちが追究して確認していけばよいと思っています。「調べても得られる情報が少ない」ということもまた大切な事実で、「その中で判断できるか？」というのも一つの論点になるかと思います。学習問題②は、前述のように「すでに世の中に存在している、直面している問い」ですので、本当に結論は出せません。現状どう考えるかについても、事実誤認はあっても不正解・正解はありません。そういった議論を、教師も含めて楽しめる教室・集団にしていくことが「社会科好きを育てる」ことにつながると考えています。

配信授業の板書

本年度は、創立50周年を迎えた附属高等学校での「附高ゼミ」に学生や大学院生、大学教員が参加・協力を行い、確かな手ごたえを感じることができました。また、教職大学院の授業に附属岡崎小学校と附属名古屋小学校が連携することで、双方の研究分析力を高めることにつながりました。

戦略６
大学・附属学校園連携推進プロジェクト

教育委員会や教育現場との緊密な連携を通して、附属学校園が今後の公立学校等のモデルとなる実証研究に取り組みます。

●附属学校園に所属する研究主任クラスの教員と大学教員により構成されたプロジェクト・チームが主体となり、毎月１回、リモートで協議会を開催します。

●附属学校園同士の交流や大学との共同研究によってモデル授業を開発し、研究会・研修会で還元します。

プロジェクトメンバー
杉浦 慶一郎　鈴木 一成　真島 聖子　小塚 良孝　石川 恭　稲垣 修一　奥村 仁　川瀬 英幹　鈴木 哲也　笠巻 一倫　西垣 祥子
佐野 嘉昭　佐藤 重成　鬼頭 百合子

活動レポート１

●素地づくりから蓄積、展開へ

回	内容
第1～13回 令和2年度末～令和3年度	未来共創プランと戦略６の関係，実践アイディア，共通アンケート検討，大学・附属学校園共同研究論文集など
第14回 4月4日（月）	令和４年度顔合わせ・自己紹介・令和４年度の戦略６の活動について
第15回 5月2日（月）	共通アンケートの確認，情報交換（大学への訪問，写真の許諾手続き）
第16回 6月13日（月）	実践発表会の報告，共通アンケートの実施状況と改善の検討（附属学校園の研究と公立学校での活用），情報交換（大学への訪問）
第17回 7月13日（水）	大学訪問の報告，大学との連携授業について，附属学校園のライブ配信及び著作権について
第18回 9月5日（月）	研究授業等情報共有，次年度子どもキャンパス予定，中高一貫校，論文集「共創」原稿執筆要項について
第19回 10月31日（月）	研究授業等情報共有，公立学校への還元，追跡調査等について
第20回 11月28日（月）	研究発表会・公開授業のアンケート結果を共通項目として集計，「共創」原稿の期限，項目改善，回収率向上，情報共有
第21回 1月30日（月）	附属学校園アンケート結果の分析と今後の課題（参考度・活用度、追跡調査について），本年度の取り組みの成果と課題，次年度以降のロードマップの確認
第22回 2月28日（火）	未来共創プラン報告書内容確認，アンケート項目，公開授業の情宣（学務ネット，チケット発券システム等），附属学校園を活用した教員研修
第23回 3月29日（水）	本年度を振り返って、次年度に向けて

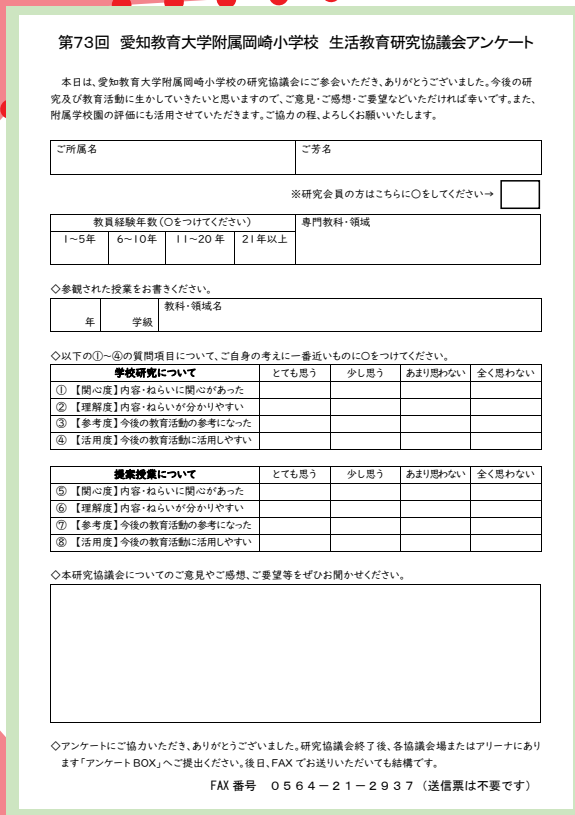
協議会の概要

2020年度、真島学長補佐とプロジェクトメンバーの鈴木准教授が７附属学校園すべてに足を運び、戦略6のプロジェクト趣旨説明および理解と協力を依頼し、大学と各附属学校園がプロジェクト・チームとしてスタートするための素地づくりを行いました。

2021年度は、附属学校園の研究主任クラスの教員と大学教員により構成されたプロジェクト・チームが主体となり、月１回のペースで、リモートで協議会を開催しました。附属学校園同士の交流や大学との共同研究によってモデル授業を開発し、研究会で還元すべく、研究会の成果を把握するためのアンケート項目について検討し、２校で先行的にアンケートを実施しました。

研究会の様子

2022年度はこれらの準備と蓄積をもとに全校園でアンケートを実施し、結果の分析・考察に基づいた改善策を総括論文として発表しました。さらに、研究会に参加した公立学校等教員を対象に追跡調査を行うとともに、附属学校園の研究成果を公立学校等で活用した事例を実践報告として発表しました。



第73回　愛知教育大学附属岡崎小学校　生活教育研究協議会アンケート

本日は、愛知教育大学附属岡崎小学校の研究協議会にご参会いただき、ありがとうございました。今後の研究及び教育活動に生かしていきたいと思いますので、ご意見・ご感想・ご要望などいただければ幸いです。また、附属学校園の評価にも活用させていただきます。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

ご所属名	ご芳名

※研究会員の方はこちらに〇をしてください→

教員経験年数（〇をつけてください）				専門教科・領域
1~5年	6~10年	11~20年	21年以上	

◇参観された授業をお書きください。

年	学級	教科・領域名

◇以下の①~④の質問項目について、ご自身の考えに一番近いものに〇をつけてください。

学校研究について	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
①【関心度】内容・ねらいに関心があった				
②【理解度】内容・ねらいが分かりやすい				
③【参考度】今後の教育活動の参考になった				
④【活用度】今後の教育活動に活用しやすい				

提案授業について	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
⑤【関心度】内容・ねらいに関心があった				
⑥【理解度】内容・ねらいが分かりやすい				
⑦【参考度】今後の教育活動の参考になった				
⑧【活用度】今後の教育活動に活用しやすい				

◇本研究協議会についてのご意見やご感想、ご要望等をぜひお聞かせください。

◇アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。研究協議会終了後、各協議会場またはアリーナにあります「アンケートBOX」へご提出ください。後日、FAXでお送りいただいても結構です。

FAX番号　０５６４－２１－２９３７（送信票は不要です）

アンケートの文面例

2022　実践研究発表会アンケート分析

愛知教育大学附属名古屋小学校　研究部

＊　参観者、職員へのアンケートより抜粋しました。参考になればと思います。

〇　参観者アンケートの結果から（参観者延べ432人（Live配信含む）中112名の回答）

〇　「内容・ねらいに関心があった」について、「とても」が8割を超えている。
〇　「今後の教育活動の参考になった」について、「とても」が7割を超えている。
●　「内容・ねらいが分かりやすい」について、「とても」が7割を下回った。
●　「今後の教育活動に活用しやすい」について、「全く」が8件ある。
→　半数（4件）は、経験年数10年以下の参観者である。
〇　「学習内容」「学習方法」について、「参考になった」との回答が多数ある。
●　「発問」「机間指導」「板書」について、「参考になった」との回答が少ない。

参観者は、「内容・ねらいに関心」をもち、「今後の教育活動の参考になった」と感じている。一方で、「内容・ねらい」が分かりづらく、「今後の教育活動に活用」しにくいと感じる方も一定数いることが分かった。また、「あまり」参考にならないと答えた方の中には、10年研前の先生も含まれている。

参考になった項目は、「学習内容」「学習方法」についてであり、「発問」「机間指導」「板書」の授業技術は参考になったと感じた参観者が少なかった。（参観者が、日頃授業実践していない立場の方が多いことも影響していると考えられる。）

このことから、私たちが伝えたい「学習内容」「学習方法」については、参観者に伝わり、参考にしていただける内容だったと考える。一方で、「今後の教育活動の参考」にはなっても、「活用」しづらいと感じる参観者もいたことから、公立校での「活用」方法についても紹介する必要があることが分かった。

あくまで「研究」（学問的に深く考え、調べ、明らかにすること）であり、「研修」（業務において必要となる知識やスキルを習得すること）ではないので、「公立でも実践できる内容」である必要はない。実践についての課題を明らかにして、デザイン思考で解決していくことに主眼をおいて授業作りを進めていくことに変わりはないが、公立校での「活用」場面を具体的に紹介していくことも大切にしていきたい。

今後も、共同研究者の方に学問的裏付けを頂きながら、よりよい実践を生み出し、公立校で活用していただけるアイデアを提供する場を作っていく。

資料1

アンケートの分析例

活動レポート 2　●大学・附属学校園共同研究論文集『共創』を刊行しました！

『共創』の概要

『共創』は、大学・附属学校園、および地域の研究・実践活動の成果を広く公表するために紙媒体で発行するとともに、愛知教育大学学術情報リポジトリに登録し、電子媒体で公表することを目的とした論文集です。大学教員及び附属学校園の教諭、幼稚園・公立学校教諭による研究をまとめたものとして、総括論文、実践研究論文、実践研究ノート、学会発表報告、実践報告、活動報告、News Letter で構成しています。

共創　第1号（2022年度）

著　者　編集：愛知教育大学「共創」編集委員会

発行日　2023年3月発行

第1号には21編の投稿がありました。総括論文1編（第4期中期計画に関わる内容及び附属学校園アンケート結果と分析）、実践研究論文6編（大学教員と附属学校園教諭との共同研究の成果）、実践研究ノート8編（大学教員と附属学校園教諭との萌芽的共同研究）、実践報告4編（附属学校園の研究を生かした幼稚園・公立学校等の取組等）・活動報告2編（個人研究報告、他の戦略と関連する活動の報告）です。

2021年度に引き続き、7つの附属学校園の研究主任クラスの教員とプロジェクト担当大学教員3名と私で、月に1度1時間程度の遠隔会議で情報交換しました。これまで、名古屋地区と岡崎地区、刈谷地区の高等学校は、ほとんど交流がありませんでしたが、この遠隔会議を繰り返すことにより互いの活動の理解を深め、それぞれの研究会後に参加者に共通のアンケートを実施したり、大学教員と共著の論文集を出したりするなど連携を深めることができています。

戦略 7
教科横断探究プロジェクト

教科等横断し、協働的に学び合う次世代型プログラムを開発するとともに、教育効果を客観的に検証する評価システムを構築し、学生の資質向上や大学の授業改善につなげます。

「遠隔・オンライン教育」、「ICT を活用した、効果的な学習支援」、「探究的な学習を通じて協働的に学び合う教科等横断学習」について、調査研究を行い、次世代型教科等横断プログラムを開発する。

プロジェクトメンバー
野地 恒有　上原 三十三　小塚 良孝　真島 聖子　梅田 恭子　竹川 慎哉　岩田 吉生　西野 雄一郎　松井 孝彦　宮川 貴彦
縄田 亮太　樋口 一成　藤本 奈美　後藤 成美　山田 紘輝

活動レポート

●次世代型教科横断探究プログラムの開発に向けた調査研究

佐久島しおさい学校で実践研究を行いました

西尾市立佐久島しおさい学校において、6月25日（土）にアマモ植栽を実施し、9月6日（火）には授業実践を行いました。佐久島のアマモ植栽は、魚介類の産卵や生育の場の再生を期待するものとして地域社会と行政、学校、企業が連携して行う事業であり、地域課題解決型の探究学習の事例です。学生はこの活動に児童とともに参加する体験を通して、教科横断の教材理解を深めています。

アマモ植栽の様子

佐久島しおさい学校での授業実践は、教科横断探究教育を実践する場として、子どもと学校のニーズに応える教材開発力を養います。今年度は、佐久島の地域防災、タマキビの生態、砂浜の性質と生き物を取り上げました。教材づくりのプロセスにおいて、教科を横断する視点から協議を重ねるとともに、事前に佐久島へ赴いて資料収集を行いました。これらの実践については、全学 FD（後述）のなかで一部紹介されました。

授業実践の様子

先進校および一般校の訪問調査を実施しました

2022年10月から 2023年3月にかけて、広島県の福山市立常石ともに学園、広島県立三原高等学校など、全国の教科横断探究・STEAM 教育・国際バカレロア教育の先進校および一般校9校（オンライン授業見学会を含む）を対象に、「教育課程、運営体制、指導プログラム、教師の資質･能力、システム評価・学習評価」等の観点から訪問調査を実施しました。

このうち、山梨学院小学校、福山市立常石ともに学園及び東京学芸大学附属国際中等教育学校の訪問調査研究について、愛知教育大学教科横断探究コースの研究誌である『6 一論叢』に掲載しました。

常石ともに学園報告会①

三原高等学校１年生報告会スライド

三原高等学校１年生報告会

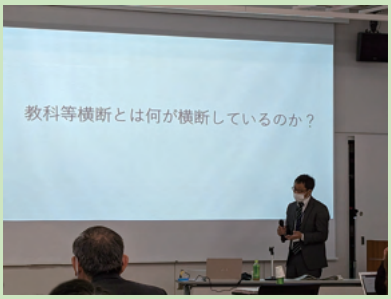
常石ともに学園報告会②

三原高等学校２年生報告会

6 一論叢

全学 FD を開催しました

2023年2月8日（水）に、FD ワークショップを実施し、西尾市立佐久島しおさい学校の主幹教諭である江口慎一氏から基調提案をいただいたほか、訪問調査の結果報告を行い、これらに基づいて、学内の教職員・学生とともに意見交換をしてアイデアを出し合いました。



FD ワークショップの様子

チラシ

グループディスカッションの様子

学習会を開催しました

教科横断探究のプログラムと実践事例の収集を行うとともに、次世代教育のビジョンづくりのための学習会を、ほぼ毎月1回、計10回開催しました。

その中で、訪問調査や、FD の成果及び論文調査資料等を基に、教科横断探究プログラムのビジョン・方針を検討しました。

学習会の様子

「教科等横断的な学び」は中教審答申でも述べられています。本学の学生組織は、教科ごとに専修が位置付けられていますが、2021年度入学生より、各専修から希望者を募り、教科横断と探究学習を目指す「教科横断探究コース」をスタートさせています。2023年2月8日に開催した FD には、多くの大学教員と学生の皆さんが参加され、関心の高さを実感しました。県内の連携校での授業実践や県外の先進校の視察等を踏まえ、次世代型のプログラム開発と評価システムの構築を急ぎます。

戦略 8
IR・教職協働の推進

IR部門を活用して得られた学内外の客観的なデータに基づき、戦略的な大学運営を行うとともに、教職員が協働して柔軟な組織運営を行います。

●IR部門では、戦略的な大学運営を行うことができるよう、学内外の客観的なデータを可視化したファクトブックの作成などに取り組みます。

●教職員が協働して柔軟な組織運営を行うことができるよう、教職員の FD･SD 等に取り組みます。

活動レポート 1

●第４期中期目標・中期計画に係る FD・SD 研修を実施

教職協働の観点から、教員と職員混合でグループ討議を行いました
クラウド上のファイルの共同編集で効率的に成果物の作成ができました

本研修会に先立ち学長理事等が説明する講義形式の動画を視聴し、各自で第４期中期目標･中期計画に関する理解を深めた上で､本学が独自に構成した５つの分野「学務」､「研究」､「社会貢献」､「未来共創」､「業務・財務」毎に討議を行いました。

研修会終了後のアンケートでは､「研修会に参加してよかったですか」の満足度の問いには、「とても思う」の回答 105 件､「少し思う」の回答 67 件で 96.6%の受講者から､「内容・ねらいに関心が高まりましたか」の関心度の問いには､「とても思う」の回答 106 件､「少し思う」の回答 64 件で 95.5%の受講者から肯定的な回答がありました。

全学 FD・SD 研修会（社会貢献部会）

全学 FD・SD 研修会（未来共創部会）

参加者から「他講座の先生方や事務職員の方と腰を据えてお話する機会になり、本学における課題に対する意識が高まり、視野が広がったように思います」といった感想が寄せられ、全学体制で取り組む意識を醸成する研修会となりました。

活動レポート 2

●ファクトブック 2022 を作成

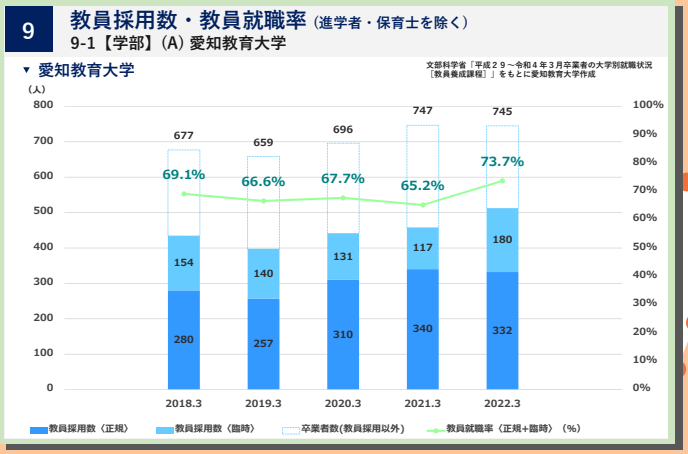
教員就職率が 8.5%上昇しました

IR 室にて毎年度作成しているファクトブックを 2022 年度版に更新しました。

低下傾向が続いていた教員就職率ですが、2022 年３月卒業生の教員就職率は 73.7%で、前年の数値から 8.5 ポイント上昇しました。

入学試験改革及びカリキュラム改革の成果検証を行い、今後も教員就職率の維持向上につながる戦略的な取組に資するよう、IR 室ではデータの収集を行っていきます。

ファクトブック 2022→



学長トーク♪

本年度の取組の目玉は、何と言っても第４期中期目標・中期計画に係る全学 FD・SD 研修です。役員等による各中期目標や評価指標の解説動画視聴のあと、5回に分けてのグループ討議を主とした研修会は、満足度が高く、全学一丸になって第４期に向かう機運を醸成することができました。

戦略９
大学間ネットワークの構築

国公私立大学と連携協定を締結して、教職大学院を核としたネットワークを構築します。

国公私立大学と連携協定を締結して、教職大学院を核としたネットワークを構築します。

活動レポート１ ●「教職大学院を核とした大学間ネットワークの構築」フォーラムを開催

2023年2月2日（木）、「教職大学院を核とした大学間ネットワークの構築」フォーラムを開催しました。教員養成の高度化に関する連携協定締結校の大学関係者、協定締結校から本学教職大学院へ進学した大学院生、本学教職員あわせて 25 名が参加しました。

はじめに野田敦敬学長から開会のあいさつが述べられた後、南山大学教職センター相談員の成田健之介氏から「教職キャリアの相談と修了生の姿から見る大学院の役割」と題し、連携協定を活用した同大学在学生への教職キャリア相談や、教職大学院への期待について基調提案をいただきました。

成田健之介氏による基調提案

その後、参加者はグループに分かれ、教職大学院の魅力や課題についてグループディスカッションを行いました。「教職大学院への進学をより身近に感じてもらうため、協定締結校の在学生との交流を増やしたい」「教育現場のニーズ・課題を見てから教職大学院に進学できるような仕組みづくりが必要」などの意見が挙げられ、最後に小塚良孝副学長からの閉会のあいさつで本フォーラムを締めくくりました。

グループディスカッションの様子

フォーラム後のアンケートでは「愛教大の院生から、実際に取り組んでいる実習の内容や課題をお聞きできて、教職大学院だからできることや、学部教育でやるべき課題を考えることができた。」「色々な立場からお話を聞けました。教職大学院生としての意義、価値、責任を再度自覚しました。」などの意見が寄せられました。

活動レポート２ ●中京大学と教員養成の高度化に関する連携協定を締結

6 月 29 日（水）、中京大学と教員養成の高度化に関する連携協定を締結しました。協定の締結式には、本学からは、野田学長および4人の理事が出席し、中京大学からは、梅村清英学長はじめ大学関係者3人が出席しました。

この協定の目的は、「本学大学院への受験・入学を希望し中京大学に在籍する教員を志す学生を対象として、本学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）において、教育実践力を備えた高度専門職業人としての教員の養成を行うこと」であり、今までに同様の協定を椙山女学園大学、愛知東邦大学、鈴鹿大学、愛知淑徳大学、愛知大学、岡崎女子大学、南山大学と締結しており、今回で8番目の協定締結校となります。

両学長による記念撮影

「教職大学院を核とした大学間ネットワークの構築」フォーラムでは、協定締結校から進学した大学院生、協定締結校の教職員、本学教職員の参加で、カリキュラムやシステムの改善に向けて、有意義な話し合いをすることができました。

本年度は、８大学目となる中部圏の大規模大学である中京大学と教職大学院特別選抜の連携協定を締結することができました。また、2023 年度早々に東海学園大学との締結ができるように準備を進めています。

あとがき

本報告書は、2022 年度『未来共創プラン』の戦略1～9の取組を一冊にまとめたものです。昨年度は、未来の教育を共に創るための土台づくりに励んだ一年でした。この土台を共創の場にするべく、今年度は、環境を整え、多様な立場の人々を招き、あそびからまなびを創造し、対話を通して共感の輪を広げることに注力しました。この間、学内外の多くのみなさまからご支援とご協力を賜りました。関係者一同、心より感謝申し上げます。

2022 年度『未来共創プラン』の取組に関し、本報告書の本文では触れられていない特筆すべき点を3つご紹介します。

1つ目は、『未来共創プラン』が、国立大学法人第 4 期中期目標を達成するための中期計画に位置付けられていることです。国立大学法人の活動は、中期目標・中期計画の策定と評価を基本とした制度設計となっています。『未来共創プラン』の戦略 1、2、3、4、7 は「教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置」として、戦略6は「その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項に関する目標を達成するための措置」として、中期目標を達成するための中期計画に位置付けられました。中期計画を着実に実行し、成果を上げることが、国立の高等教育機関としての愛知教育大学の使命を果たすことにつながります。

2つ目は、未来共創推進室を中心とした連携体制です。大学の組織には、教員組織と事務組織があり、この 2 つの組織が大学の前輪と後輪となり、授業運営や教育研究、地域貢献活動を推進します。今年度から、『未来共創プラン』に特化した未来共創推進室を創設したことで、事務組織内での連携体制の構築が進むとともに、教員と事務職員との協力関係も築かれてきました。未来共創推進室では『未来共創プラン』を盛り上げるグッズの開発にも力を入れており、子どもキャンパスで本学を訪れた子どもたちにグッズの配付をしています。

3つ目は、『未来共創プラン』の特設ウェブサイトの開設です。ウェブサイトのアドレスは、https://www.aichi-edu.ac.jp/cocreate/ です。本報告書でも大活躍の『未来共創プラン』のマスコットキャラクターである「ミライネコ」のミーちゃん（三毛猫）、ラーちゃん（トラ柄）、イーくん（ハチ割れ）の 3 匹が登場し、あそんだり、まなんだりしながら、戦略1～9 を紹介します。新着情報やイベントの案内、シンポジウムや研究成果の報告など、楽しく、気楽にご覧いただけます。

愛知教育大学の『未来共創プラン』を推進するエンジンの燃料は、子どもたちのワクワクや学生の知的好奇心、保護者の愛情、教職員の情熱、地域・社会・世界の様々な人々との対話です。これからも、よりよい教育の未来を目指した共創の場づくりを通して、共感の輪を広げていきたいと思います。

真島　聖子（未来共創プラン担当学長補佐）

『未来共創プラン』特設ウェブサイト

『愛知教育大学未来共創プラン 2022』

監修 | 野田 敦敬（愛知教育大学 学長）
小塚 良孝（愛知教育大学 副学長　学生支援・国際交流・未来共創担当）
真島 聖子（愛知教育大学 学長補佐　未来共創プラン担当）

担当課		
	企画課 未来共創推進室	戦略 1
	学術研究支援課	戦略 2、戦略 3
	国際企画課	戦略 4
	附属学校課	戦略 5、戦略 6
	教務企画課	戦略 7、戦略 9
	企画課	戦略 8

デザイン ｜ 企画課 未来共創推進室

愛知教育大学未来共創プラン 2022 | 2023 年 3 月 31 日 発行
監修　野田敦敬・小塚良孝・真島聖子
発行　国立大学法人愛知教育大学

印刷 ｜ ツゲ印刷株式会社

未来の教育を共に創る

愛知教育大学が目指す姿

〇子どもの声が聞こえるキャンパス
〇地域から頼られる大学

未来共創プランの HP が
オープンしました！
ぜひ遊びに来てください。

国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

〒448-8542
愛知県刈谷市井ケ谷町広沢１
https://www.aichi-edu.ac.jp/